

第14回せいい看護学会学術集会
—ワークショップ—

医療MaaSと看護のコラボレーション

渡邊真智子¹⁾

浜松看護管理研究会
トヨタ車体株式会社
AMA Xperteye株式会社

渡邊真智子、鶴田 恵子
藪田 耕一、古谷 美和
山地 圭

ワークショップの目的は、医療MaaS (Mobility as a Service)^{*1)}に焦点をあて、デジタル技術の進化と看護師がコラボレーションする方法や、看護の専門性と価値について創造することであった。ワークショップには、病院や地域の看護師のほか、学生や看護教員など23名が参加した。始めに、医療MaaS「メディカルムーバー」を開発するトヨタ車体株式会社（以下、トヨタ車体）の担当者が、車両開発の経緯や、国内の実証実験の状況を報告し、車両が医療回診車や地域住民のヘルスチェックに利用されていることを共有した。参加者は、浜松看護管理研究会のオンライン診療デモンストレーションを見た後、5グループに分かれディスカッションを行った。その内容は模造紙に記載され、記載された内容をもとに発表が行われた。

発表では、へき地医療で活用できる、通院困難な在宅療養者に活用出来るといった、活用方法についての意見に加え、オンラインで医師と繋がっていることは、看護師にとっても安心である、という看護師のメリットに繋がる意見が共有された。一方で、自分が同乗すると考えると不安がある、看護師のスキルアップが必要である、

といった意見からは、同乗する看護師に一定の能力が求められることが示唆された。

トヨタ車体の担当者は、今回ワークショップで共有された意見は、今後メディカルムーバーをより良くするための貴重なヒントになると捉えており、車両の開発者にとっても有意義なディスカッションであった。

学術集会開催期間中に会場の中庭で車両展示、車両説明や乗車体験が実施された。展示車両の見学者は40名を超え、感心の高さが伺えた。浜松看護管理研究会では、今後も、医療MaaSと看護が、地域医療に貢献する在り方について検討を続ける予定である。

^{*1)} 医療機材を搭載した車両で患者の元へ出向き、患者と病院にいる医師をオンラインでつなぐことで、車内で診療を行うことができる可動式の医療サービス



1) 浜松看護管理研究会